

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈協定更新を終えて〉

○ 6大学コンソーシアム協定の更新

毎年開催するSUIJIセミナーにて、6大学コンソーシアム協定の更新を行い、更なる連携強化と今後の活動の発展に合意した。

○ 6大学協働によるサービラーニング・プログラムの学生評価ルーブリックの検討

3年間の本格実践を踏まえ、養成すべき能力を5つに再整理した。より具体的な評価項目・指標によるルーブリック形式の学生の自己評価シートを関係教員で整備し、活用している。

○ 第4回外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第4回外部評価委員会を開催し(H28年2月)、質の保証を伴った大学間交流の枠組形成を検証し、プログラムの改善と持続性について助言を得た。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈最終成果発表に向けて英語での議論の様子〉



○ サービラーニング・プログラムの実施

6大学の学部学生がともに農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国8サイト(H27年8月)とインドネシア5サイト(H28年2月)で実施し、日・イの学生延べ約230名が参加した。

○ 修士課程共同学位プログラムを実施

農学関連分野における共同学位プログラム(修士課程)を実施した。平成25・26・27年度にインドネシアに派遣した日本人学生の中から、6名に6大学コンソーシアムからプログラムの修了証書が授与された。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラム等に、日本3大学から学部学生計64名を派遣。共同学位プログラムでは、修士課程の学生3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計40名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生12名を受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	58	67	97
学生の受入	19	39	51	52	69

注)H24-H27は実績、H28は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

渡航に先立ち、サバイバル・インドネシア語クラスを実施するとともに、e-Learningの形で提供するためのコンテンツ(8課分)を作成し、平成28年度後学期からの運用を予定している。入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進のための環境整備

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業等から支援を得た。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ セミナーやSNSを通じた成果発信

サービラーニングの成果を発信、議論する成果発表会をボゴール農業大学(H28年3月)にて開催した。Facebookを通じた情報共有と成果発信を常時行っている。

○ 学会や研究雑誌での報告を通じた成果の発信

事業実施を通じた成果をフィールド教育や国際交流、地域づくりをテーマとした学会および研究誌で報告・発表した。